

資 料

## 仙台大学スポーツ情報マスメディア学科新入生に対する 動向調査分析結果と課題

八重樫瞳、藤本晋也、勝田 隆、栗木一博、佐藤 宏、中房敏朗  
荒井龍弥、斉藤浩二、太田四郎、石丸出穂、涌田龍治、内野秀哲

The results of the survey of tendencies of the new students of the Department of Sport Intelligence & Mass Media at Sendai University

Hitomi Yaegashi, Shinya Fujimoto, Takashi Katsuta, Kazuhiro Awaki, Hiroshi Sato,  
Toshiro Nakafusa, Tatsuya Arai, Koji Saito, Shiro Ota, Izuho Ishimaru, Ryuji Wakuta,  
Hidetaka Uchino

---

The Department of Sport Intelligence & Mass Media (hereinafter referred to as “the Dept of SIM”) was established at Sendai University in this academic year.

This report is an attitude survey of its new students, which was done in May.

The research showed as followed;

1. Most students had higher interest in the activity of the Dept of SIM’s educational program.
2. Most students had interest in the extracurricular activities of the Dept of SIM’s educational program.
3. Most students had clear career plans of their own.

Key words: The Department of Sport Intelligence & Mass Media, attitude investigation, extracurricular activity program, career plan

### 1. はじめに

仙台大学は、体育・スポーツ系大学として、スポーツの普及や競技力向上の観点から、スポーツに関する情報・メディアを科学的にとらえ、関連する分野において社会に貢献する有為な人材を育成することを目的として、今年度よりスポーツ情報マスメディア学科（以下「SIM学科」とする）を開設した。

本報告は、この新しい学科に入学した第一期学生が、どのような興味や動機で、またどのような情報をもとに入学してきたのか、併せて今後の進路志望などについて調査したものであ

る。SIM学科では、この動向および志望調査を定期的かつ継続して実施し、学科の進路指導等も含めた教育や広報活動の参考情報にしたいと考えている。

### 2. 調査方法・対象・内容

調査方法は、ワードプロセッサ（Microsoft・word）で作成したアンケート調査を添付ファイルにて各学生の学内アカウントメールへ平成19年5月11日に一斉送信した。調査対象となった学生は受信したファイルに回答を記入し、返信した。今回はその回答データをまとめたものを

報告する。提出完了時期は、5月－6月間で全ての学生が返信を完了し、提出率は100%であった。

調査対象は、スポーツ情報マスメディア学科に入学した男子12名、女子13名の計25名であった。

アンケートの内容(表1)は、志望動機、興味・希望、入試方法・時期、本学に対してのイメージとギャップ、コース選択、将来の希望などについて行なった。アンケートの回答は、自由記述方式とした。実際に使用した質問用紙は参考資料として文末に添付した。

### 3. 結果と考察

#### (1) 志望動機について

本学のスポーツ情報マスメディア学科は、本年度新設した学科であるため、志望するに当たっての情報が少なく、どのような学科なのかということを知るために苦労した学生が多かったようだ。学科名でもあり、回答の記述の中に多く見られる「スポーツ」、「情報」、「マスメディア」というキーワードをもとに本学科を志望し、入学した25名の学生の共通するのは、「スポーツに関わる仕事」という職種を希望していることであった。具体的にはスポーツライターやジャーナリスト、テレビ・ラジオ・雑誌の仕事、(スポーツ)アナリストなどになりたいという回答が多かった。教員免許(保健体育)も取得出来ることから、「映像や機器などを使いこなし、生徒に実技と情報を指導できる新しいスタイルの保健体育教員になりたい」という回答も見られた。ジャーナリスト志望の学生の中には、「スポーツの楽しさを一人でも多くの人に伝える仕事に就きたい」、「メディアを通して様々な情報を世界に流す仕事がしたい」など、自己の職業に対するイメージを記述した回答も見られた。アナリスト志望の学生に関しては、オリンピックや競技団体でのデータ分析や情報戦略に興味を持っていることが分かった。他にもス

ポーツ関係の通訳の仕事をして国際的に役に立ちたいという極めて具体的な回答も見られた。

#### (2) 入学後の興味や希望について

今後、興味があることや希望についての問いに対しては、「現場での実習や経験をしてみたい」という内容の回答が多かった。「選手から直接話を聞いてみたい」、「スポーツ記者の方からの話を聞いてみたい」、「スポーツジャーナリストになるための知識や文章作成の技術を身に付けたい」、「読む人に訴えかけるような記事を書けるようになりたい」、「全日本チームを支えるスタッフの仕事を見て、話を聞いてみたい」、「2008年の北京オリンピックに行き世界トップレベルの選手やスタッフを見て勉強したい」、「映像やビデオを作製したい」、「オリンピックに関わる仕事がしたい」、「スポーツの企画・運営をしたい」などがその回答の具体的な内容である。現在、学生が持っている興味や希望は、将来の進路に関する重要な内容を含んでおり、学科の運営および教育活動内容に反映させてゆくための重要な資料を提供しているものと考えられる。

#### (3) 受験の方法について

本学科受験生が受験できる入試方法は、推薦入試一般公募制、一般入試(前期)、一般入試(後期)、センター入試利用(前期)、センター入試利用(後期)の5種類である。平成19年度の出願状況は、推薦入試一般公募制の募集人員15名に対して志願者7名、受験者7名、合格者5名、手続者5名、入学者5名であった。一般入試(前期)は、募集人員15名に対して志願者25名、受験者25名、合格者20名、手続者7名、入学者7名であった。一般入試(後期)は、募集人員若干名に対して志願者6名、受験者6名、合格者4名、手続者4名、入学者4名であった。センター入試利用(前期)は、募集人員5名に対して志願者20名、受験者20名、合格者17名、手続者10名、入学者9名であった。センター入

仙台大学スポーツ情報マスメディア学科新生に対する動向調査分析結果と課題

試利用（後期）は、募集人員若干名に対して志願者2名、受験者2名、合格者1名、手続者0名、入学者0名であった。一般入試（前期）とセンター入試利用（前期）を併願して受験した学生が2名いたが、センター入試利用（前期）として入学した。

（4）SIM 学科の存在を知った時期について

SIM 学科を知った時期は、図1に示したとおり、平成18年7月より前が2名、8月が4名、9月が4名、10月が2名、11月が3名、12月が

6名、平成19年1月が3名、2月が1名、3月が0名という結果であった。どのような形で知ったかという問いに対しては、学校の先生から11名、仙台大学の大学案内パンフレットが6名、オープンキャンパスが2名、インターネットが2名、その他（母と兄から、入試関係の本）が2名、大学説明会が1名、知人から1名、広告から1名であった。

高校教師からSIM 学科の説明を受けた学生は少なかったようだ。高校教師から説明が少なかった理由として考えられることは、SIM 学

表2 平成19年度 スポーツ情報マスメディア学科入試出願状況

選択区分	募集	志願者			受験者			合格者			手続者			入学者			倍率
	人員	男	女	全	男	女	全	男	女	全	男	女	全	男	女	全	
推薦入試 一般公募制	15	4	3	7	4	3	7	2	3	5	2	3	5	2	3	5	1.40
一般入試（前期）	15	14	11	25	14	11	25	10	10	20	3	4	7	3	4	7	1.25
一般入試（後期）	若干名	3	3	6	3	3	6	2	2	4	2	2	4	2	2	4	1.50
センター試験利用（前期）	5	11	9	20	11	9	20	9	8	17	5	5	10	5	4	9	1.18
センター試験利用（後期）	若干名	1	1	2	1	1	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2.00
スポーツ情報マスメディア学科計	40	33	27	60	33	27	60	24	23	47	12	14	26	12	13	25	

（仙台大学 HP 参照）

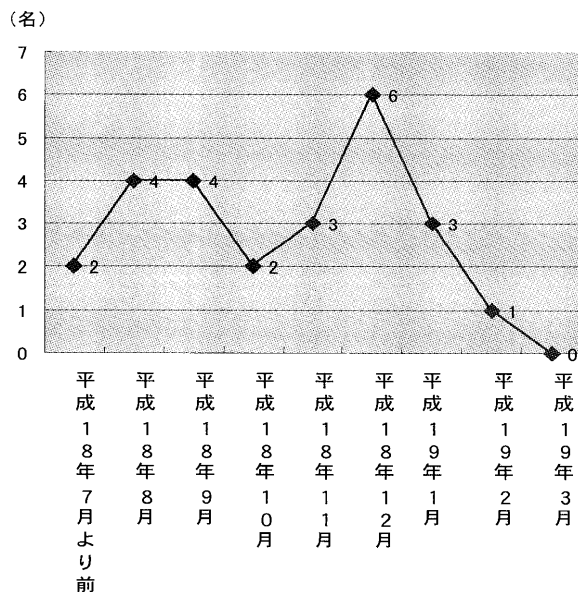


図1 SIM 学科の存在を知った時期

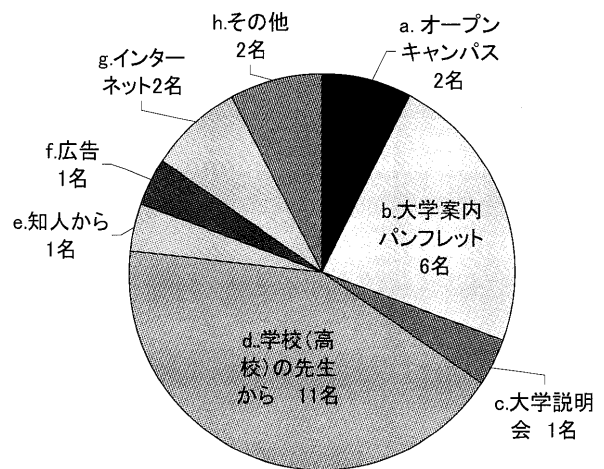


図2 SIM 学科を知ったきっかけ

科の広報活動が昨年の8月以降であったこと、SIM 学科を新設するという説明は行なったが、学科内容がうまく伝わらなかったこと、全国でも情報分析分野とマスメディア分野が一緒になった学科がないことなどが考えられる。この件に関しては、今後の課題として検討する必要がある。

高校からの説明に関する記述として「新しい学科なので情報が少なくよく分からない」というものがあり、高校に対する広報活動の重要性を見て取ることができる。この他「教員免許が取得出来、これからの時代に通用する」という本学の独自性を受験生に対して情報提供している例も見られ、これも、本学のこういった部分を周知しなければならないかという貴重な情報である。しかし、広報活動が遅く始められたことから、ほとんどが、自分で調べて受験したという回答だった。

#### (5) 仙台大学及びSIM 学科についてのイメージとギャップ

仙台大学に対して入学前に持っていたイメージとして、「スポーツや部活動が盛ん」、「東北唯一の体育系大学」、「活発」、「スポーツ万能」という回答が多かった。それに対して、入学後のイメージには、「スポーツ」や「部活」という言葉は少なく、「自由で楽しい」、「1年生のうちから学外研修などへ参加できるとは思っていなかった」、「色々なことが出来るので感動した」、「研究室のイメージが変わった」など新学科としての本学の独自の取り組みに対する肯定的な回答が多く見られた。特に学外研修についての回答が多かった。本年度入学した学生は部活動に所属している学生が少ないためか、学科の教育活動の特徴である学外研修などに参加する学生が多い。5月から7月の間に9回の学外研修を行なった。学外研修への参加は自由参加としているが、25名中23人の学生が何らかの研修に参加している。現在までの学外研修の内容は、報道(局)現場の視察および現場記者への

インタビュー、トップレベル競技会の視察とゲーム分析実習、情報収集・編集・分析講習会への参加、海外セミナー視察研修などである。参加した学生は後日レポート提出を義務づけられている。提出されたレポートは今後ニュースレターの1つとして配信する予定である。

#### (6) 2年次からのコース選択について

SIM 学科では、2年次にスポーツマスメディアコースとスポーツ情報戦略コースのどちらかに所属しなければならない。1年次には学科としての授業は導入演習のみで専門的な授業はないが、現時点での希望として、スポーツマスメディアコースを希望する学生は14名、スポーツ情報戦略コースを希望する学生は11名であった。スポーツマスメディアコースを希望した理由としては、「スポーツライター」や「スポーツジャーナリスト」、「スポーツ記者」具体的な職種名を回答するものが多かった。これに対し、「人に興味を持ってもらえるような文章を書くテクニックを勉強したい」、「色々な世代の人に分かりやすく伝えたい」などスポーツマスメディアの存在意義やその知識、専門性を理由に挙げる回答も見られた。スポーツ情報戦略コースを希望した理由としては、「スポーツアナリストや情報戦略スタッフの仕事を学びたい」、「将来はスポーツ団体などのアナリストとして働きたい」、「学外研修で国立スポーツ科学センターに行き、興味を持った」、「ナショナルチームのアナリストになりたい」など具体的な職業名を挙げた回答がほとんどであった。共通しているのはそれぞれのコースを選択した理由として、将来の職業に繋がる選択をしている回答がほとんどだったということである。

#### (7) 将来の進路希望について

ほとんどの回答が明確な将来の職業像を描いたものであった。その中でも、アナリスト志望が8名、ジャーナリスト志望が7名、教員志望が5名、研究者が2名、通訳が1名、イベント

企画・運営が1名、未定が1名であった。アナリスト志望者は、サッカー、バレーボール、ハンドボール、ラグビーなどの競技名を挙げており、アナリストが重要な役割を果たす種目であることや実際に学外研修や学内での講話の中でその活動内容が示されたことがこれらの種目名が表れた理由であろうと考えられる。ジャーナリスト志望の中には、「テレビ局で働きたい」、「スポーツの素晴らしさを世界へ伝えたい」などの記述があった。研究者志望の学生は、「スポーツマスメディアが世間に対して及ぼす現象や金銭の動きを研究してみたい」、「高野連の野球憲章や特待生制度について研究してみたい」という回答であった。これらは、スポーツ界において現在中心的に位置づけられている研究課題であり、その情報に対する感度の高さを見て取ることができる。

#### 4. まとめ

本報告は、今年度よりスタートした仙台大学スポーツ情報マスメディア学科（SIM 学科）に入学した第一期学生が、どのような興味や動機で、またどのような情報をもとに入学してきたのか、併せて今後の進路志望などについて新入生25名全員に調査したものである。アンケート調査から以下のような傾向が見られた。

##### （1）志望動機について

- ① 「スポーツに関わる仕事がしたい」という志望動機が多かった。
- ② スポーツライターやジャーナリスト、テレビ・ラジオ・雑誌の仕事、アナリストなどになりたいという回答が多かった。
- ③ 教員免許も取得出来ることから、映像や機器などを使いこなし、生徒に実技と情報を指導できる新しいスタイルの保健体育教員になりたいという回答があった。

##### （2）興味・希望について

- ① 「現場での実習や経験をしてみたい」という回答が多かった。

##### （3）第一期入学生の受験の方法

第一期生の受験方法は、推薦入試一般公募制、一般入試（前期）、センター入試利用（前期）、一般入試（後期）、センター入試利用（後期）の5種類であった。

- ① 推薦入試一般公募制での入学者は5名。
- ② 一般入試（前期）での入学者は7名
- ③ センター入試利用（前期）での入学者は9名
- ④ 一般入試（後期）での入学者は4名
- ⑤ センター入試利用（後期）での入学者は0名

##### （4）SIM 学科の存在を知った時期とその理由

- ① 平成18年7月より前が2名、8月が4名、9月が4名、10月が2名、11月が3名、12月が6名、平成19年1月が3名、2月が1名という結果であった。
- ② どのような形で知ったかという問いに対しては、学校の先生からが11名、仙台大学の大学案内パンフレットが6名、オープンキャンパスが2名、インターネットが2名、その他（母と兄から、入試関係の本）が2名、大学説明会が1名、知人からが1名、広告からが1名であった。

##### （4）仙台大学およびSIM 学科のイメージとギャップ

- ① 入学前に持っていた仙台大学のイメージは、「スポーツや部活動が盛ん」、「東北唯一の体育系大学」、「活発」、「スポーツ万能」というイメージが多かった。
- ② 入学後のイメージには、「スポーツ」や「部活」という言葉は少なく、「自由で楽しい」、「1年生のうちから学外研修などへ参加できるとは思っていなかった」、「色々なことが出来るので感動した」、「研究室のイメージが変わった」など肯定的な回答が多かった。

##### （5）コース選択について

2年次から選択となる「スポーツマスメディアコース」と「スポーツ情報戦略コース」の志望状況は、「スポーツマスメディアコース」を

希望する学生は14名、「スポーツ情報戦略コース」を希望する学生は11名であった。

(6) 将来の進路希望について

アナリスト志望が8名、ジャーナリスト志望が7名、教員志望が5名、研究者が2名、通訳が1名、イベント企画・運営が1名、未定が1名であった。

## 5. 今後の展望

今後の展望として、SIM 学科の学生に対して、この動向および志望調査を定期的かつ継続して実施し、学科の進路指導等も含めた教育や広報活動の参考情報にしたいと考えている。調査の主な内容は、入学後の興味の変化や現在の活動状況、部活動などへの所属などである。

学科のPR や入試の呼びかけに関しては、結果・考察(4) から、SIM 学科を知った時期が早ければ早いほど受験時期が早いことから、早い段階での広報活動と対象をスポーツや体育に興味関心のある受験生に限定せず、広い分野での呼びかけが必要であることが示唆された。今年度は5月から6月にかけて、SIM 学科説明会を山形市、登米市、仙台市で行なった。どの会場でも更にSIM 学科に興味を持った高校生が多く、良い反応を得ることができた。「一日体験会」(平成19年6月30日、仙台大学にて実施)のアンケート結果では、職業や就職先についての関心が高いことがわかった。このような結果を今後を活かし、高校生や教員が求めていることなども調査し、検討していきたい。

### 【参考資料】

1. 動向調査を行なうに当たって、使用した質問用紙

表1 動向調査の質問項目

1. SIM 学科を選んだ動機は何か?
2. SIM 学科でどのようなことをしてみたいか? 興味や希望など。
3. SIM 学科をどのような方法で受験したか?
4. SIM 学科のことをいつ知ったか?
5. それはどのような形で知ったか?
6. 高校の先生(担任や進路指導担当の先生)からどのような説明を受けたか?
7. 仙台大学に対して、どのようなイメージがあったか?
8. 入学する前と入学後のイメージにギャップはあったか?
9. コース選択について、現時点での希望はどちらか?
10. 将来どのような仕事、または研究や勉強などをしたいか?

2. 平成19年度スポーツ情報マスメディア学科一日体験会でのアンケート結果

平成19年6月30日にスポーツ情報マスメディア学科の一日体験会が行なわれた。参加者は、17名の高校生と9名の保護者の計26名であった。参加者には体験会終了後にアンケートに記入してもらった。アンケート内容は、仙台大学入試創職室で作成したもので、全学科共通の内容のものである。質問項目は、「何を期待して参加したか」、「印象に残ったことは何か」、「意見・感想」の3項目であった。「何を期待して参加したか」という質問に対しては、「新しい学科なので、どのような学科なのか?」、「どんな授業があるのか?」、「就職先にどのようなところがあるのか」という回答が多かった。また「大学や学生の雰囲気」、「学内の施設などを知

りたい」という回答もあった。次に、「印象に残ったことは何か」という質問に対しては、「グループワーク」、「映像編集」、「キャンパスツアー」、「学生と過ごせたこと」などが多かった。グループワークは、2年次の授業であるヒューマンリレーション演習を行なった。「お互い初めて会った同士ではあったが、このヒューマンリレーション演習を通して早く打ち解けられた」という回答もあった。映像編集は、第3体育館4階FDルームにて当日の様子を撮影した写真を使用してグループ毎に動画を作成した。キャンパスツアーは、補助学生として参加した新学科の1年生が学内を案内した。その際に、大学生活の話や現在行なっている学外研修などの活動について話をしたことが参加した高校生にとっては学生を身近に感じる事が出来、学科の様子が伝わったようだ。感想や意見で最も多かったのが、「楽しかった」という回答であった。「参加する前は学科にどのようなことをするのかイメージが出来なかったが一日体験会を通して色々と知ることが出来た」、「オープンキャンパスにも参加したい」という回答もあった。回答の全体を通して、学科の内容・授業、学生の様子や雰囲気、就職先などが主に知りたいたいこととして挙げられていた。